

■冬の特集展示が始まりました

企画展示コーナーにて、冬の特集展示を行っています。

特集① 冬

「冬」や「寒さ」にちなんだ資料を展示しています。冬用衣類や編み機、温石（カイロ）、錦絵などです。

ねんねこと呼ばれる綿入れ半纏はこの展示のためにお借りしたもので、約60年前に使用されました。背負い紐でおんぶした乳幼児ごと覆うように着用します。孫と娘が寒さから身を守ることができるよう祖母が手縫いしたもので、鮮やかな生地が印象的です。

特集② 大工道具

市内長橋町の個人から寄贈された大工道具を展示しています。

昭和18年から20年（1943～45）頃に労働科学研究所が行った調査によると、大工道具は、安普請の住宅でも72種類、高精度の建物では179種類の道具が必要（社団法人全日本建築士会附属建築道具館編『大工道具の本』1998 理工学社より）とのことで、本資料群も、一口にカンナといっても様々な大きさや形のものがそろっており非常に多彩です。

3月上旬頃まで展示する予定です。ぜひご覧ください。



■小学校のみなさんが続々見学に来ました



9月に来館した幼稚園のみなさんです。大きなお面を見上げています。



土淵小学校のみなさんです。足踏みミシンを体験しています。



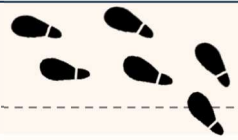
かまどでどのように火を起こすのか、触りながら探っています。

10月～11月にかけて、向中野小学校、本宮小学校、土淵小学校、好摩小学校、都南東小学校（来館順）とたくさんの小学校のみなさんが昔の暮らしを学びに来てくれました。熱心に昔の道具を観察し、活発に質問をする子どもたちの姿で晩秋の資料館が賑わいました。

また、学校見学の後日、ご家族と一緒に再び資料館を訪問してくれた子どもさんもおおり、ご家族で楽しそうに会話をしながら見学されていました。

となんの民話さんぽ 3 つしだ だいこく 津志田の大黒さん

都南の民話と、
民話にまつわる史跡
などをご紹介します



むかし、盛岡市呉服町（現在の中ノ橋通）にあった高与旅館の主人が、古道具屋で木彫の大黒さんを買って求めました。扇形の厚い板に直径一尺（約 30cm）以上もある大きなニコニコ顔がとりつけられているものです。

さっそく大黒さんを神棚そばの欄間（天井下の通風や明かりとりのための部分）に掛けて拝んでいましたが、いつの間にか畳の上に落ちています。気にとめず掛け直しましたが、2～3日するとまた落ちています。重いものが落ちたにもかかわらず、物音もしません。これが何度も続き、不思議がった主人は物知り（占い師）に相談しました。すると、「この大黒さんはもともと納められていた津志田のお社に帰りたいくて何度も下へ落ちるのだ。すぐにお返しの方がよい。」と忠告されました。主人は驚きすぐに津志田を訪れ、大黒さんを大国神社に奉納しました。

これは終戦後まもない頃のお話です。現在も大国神社の拝殿にはニコニコ顔の大黒さんが掛けられていますが、一度も落ちたことがありません。

参考文献：都南村歴史民俗資料館『都南の民話』1985年

民話ゆかりの史跡 だいこくじんじや 大国神社

文化7年（1810）、盛岡城下から津志田への遊郭移転に伴い、藩主南部利敬がこの地の総鎮守として創建した。そのため、楼主や遊女が奉納した大国神社献額（市指定有形文化財）ほか、遊郭の面影が残されている。

祭神は おのおなむちのみこと おおくにぬしのみこと 大穴牟遲之命（大国主命）。



大国神社
盛岡市津志田中央1丁目地内
岩手県交通バス停「津志田」下車徒歩1分



見て さわって 動かして 深まる学習

～昔の暮らしを知る 盛岡市都南歴史民俗資料館の貴重な収蔵品～

第3回 竈（かまど）



昭和初期に登場した
改良かまど（当館蔵）

しかし、昭和30年代にガステーブルが登場すると、その役目を終えます。電気炊飯器をはじめ、様々な電化製品が使われるようになって、人々の暮らしも大きく変わりました。温かい食べ物を食べるためには、まず火を起こさなければならなかった当時の人々の暮らしをかまどの前で想像してみるのもよいのではないのでしょうか。

（参考文献）朝倉治彦・安藤菊二・樋口秀雄・丸山信編『新装版 事物起源辞典 衣食住編』東京堂出版 2001



となん歴史民だより vol.75
令和5年12月28日
盛岡市都南歴史民俗資料館 発行

岩手県盛岡市湯沢1-1-38（都南つどいの森を目印にお越しくください）

TEL/FAX 019-638-7228

時間 9:00～16:00

休館日 月曜日（祝休日の場合は翌平日）

入館料 無料